

赤十字奉仕団と木造高生が災害への備え学ぶ

市赤十字奉仕団と木造高校JRC部が合同研修を行いました。この日、奉仕団15人と生徒10人は、防災備蓄倉庫を見学したり、停電時に役立つものを確認したりするなど、普段の備えの大切さを学びました。

また、生徒が見本となって、避難生活の際にエコノミークラス症候群の予防にも役立つ「つがるトキメキ体操」を体験。参加した小笠原桂子さんは「座りながらでもできそうな体操だった。今後も続けていきたい」と話し、木造高校3年江良美唯菜さんは「災害が起こった際も健康のために実践してほしい。今後もつがるトキメキ体操を通して、健康寿命を延ばしていただけたら」と話しました。

このほか、非常食「アルファ米カレーライス」も試食し、想像以上のおいしさに驚いた方もいました。



8/10
防災備蓄倉庫ほか

アルファ米にお湯を注ぐ参加者たち

県内初！市と青森ワッツがパートナーシップを締結



8/21
市役所

協定書を手にする倉光市長と北谷社長

市は、プロバスケットボールチーム「青森ワッツ」を運営する青森スポーツクリエイション株式会社(北谷稔行代表取締役社長)と「スポーツを通じた地域活性化に関するパートナーシップ協定」を締結。伊藤鉱業アリーナつがるで、青森ワッツ公式戦の開催をはじめ、公認のバスケットボールスクールや出張クリニック、チアスクールなどを実施し、スポーツ振興および地域活性化を図っていきます。

締結式で倉光市長は「協定締結を大変うれしく思います。伊藤鉱業アリーナつがるを青森ワッツに盛り上げていただきたい」と期待しました。

北谷社長は「多くのつがる市民、青森県民に足を運んでもらって、たくさんの応援に勝利という結果で応えたい」と意気込みました。

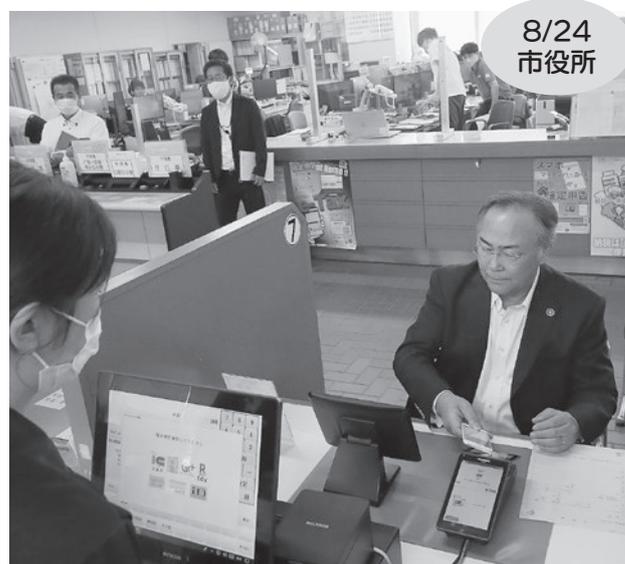
市役所や公共施設でキャッシュレス決済はじまる

この日、市役所窓口や公共施設など全10カ所でキャッシュレス決済サービスが開始しました。対象となるのは窓口で交付している住民票の写しなどの交付手数料、施設使用料および入館料です。

利用可能な決済方法は、クレジットカード5種、電子マネー14種、QRコード6種で、お釣りも含め現金の受け渡しの必要がなく、手軽にお支払いが可能ですので、ご利用ください。

対象窓口：市役所(市民課・税務課・収納課)、稲垣・車力・つがる出張所、松の館、縄文住居展示資料館カルコ、木造亀ヶ岡考古資料室、森田歴史民俗資料館

決済方法 クレジットカード(VISA・Mastercard・JCB・AMEX・Diners)、電子マネー(iD・QUICPay・nanaco・楽天Edy・WAON・Suica・PASMO・Kitaka・tolCa・manaca・ICOCA・SUGOCA・nimoca・はやかけん)、QRコード(PayPay・d払い・auPAY・楽天Pay・メルペイ銀行Pay)



8/24
市役所

キャッシュレス決済を体験する倉光市長

上原げんと杯のど自慢大会チャンピオン決定



チャンピオンに輝いた須々田さん

第45回上原げんと杯争奪のど自慢大会(上原げんと杯実行委員会主催)が開催され、集まった聴衆約500人は、力が入った歌に聴き入りました。7月30日に行われた予選には県内外から76人が参加。この日、予選を勝ち抜いた29人による準決勝と、準決勝上位10人による決勝、さらには決勝上位3人による優勝決定戦が行われ、優勝者が決定しました。

見事優勝したのは、優勝決定戦で「吐息」(河嶋けんじ)を熱唱した平川市の須々田憲一さん。「これまで4回出場し、昨年は予選落ち。1年かけてリベンジの準備をしてきた。決勝までいけば本望、まさか優勝するとは考えていなかった」と喜びを語りました。

駿河台大学駅伝部が本市で初合宿

駿河台大学(埼玉県飯能市)の駅伝部が、10月14日に行われる第100回東京箱根間往復大学駅伝競走予選会に向けて、8月27日から9月2日までの間、本市で合宿を行いました。

同駅伝部は、2012年に創部され2022年の第98回箱根駅伝に初出場し、タスキをつないで完走を遂げました。監督は、法政大学在学中にエースとして活躍した徳本一善氏。

本市を訪れた駅伝部員20人は、つがる地球村に宿泊しながら、関東よりも暑い日が続く想定外の厳しい環境の中、毎日練習に励みました。

また、8月27日には木造中学校で市民を対象に講習会も行われ、児童生徒から大人まで大勢が参加し、走り方の基本や体の使い方などを学びました。講習会で徳本監督は、速く走るためには、講習会で習った動作を正確に覚えて、動作の速さを上げていくなどの積み重ねが大事だとアドバイスしました。



(上)1^分のインターバルトレーニングを行う部員たち
(左)部員にアドバイスをもらいながらハードルを使ったトレーニングに挑戦する参加者

交通死亡事故ゼロ300日達成!



決意を新たに倉光市長と山本会長

市は令和4年10月30日から交通死亡事故ゼロ300日を達成しました。

この日、伝達式が行われ、青森県警察小田桐勝行交通部長から、市交通安全対策協議会(倉光弘昭会長)に感謝状、市交通安全母の会連合会(山本薫会長)に表彰状が手渡されました。

倉光市長は「交通死亡事故ゼロ600日を目指して、引き続き交通事故防止に取り組んでまいります」と決意を新たにしました。

山本会長は「自転車利用者のヘルメット着用が努力義務化されましたが、着用が進んでいないので、着用を呼び掛けていきたい。行政からも強く推し進めてくれることを願っています」と話しました。

JOMONまつり開催！縄文ロマンに沸く会場

9/2
亀ヶ岡
石器時代遺跡



世界文化遺産登録2周年を記念し「JOMON亀ヶ岡遺跡・田小屋野貝塚まつり2023」(NPO法人つがる縄文の会主催)が開催されました。

今年は、民間団体じょうもんズが協賛し、クラフト・飲食マーケットや縄文太鼓などでまつりを盛り上げました。

また、火おこしやベンケイ貝の貝輪づくり体験が行われたほか、木造高校の生徒がガイドを務め遺跡内を案内したりしました。

SNSで開催を知り平川市から訪れた家族は、火おこしを体験し「火が付かなかったけど楽しかった。昔の人は火をおこすのが大変だと思った」と話しました。



①スマホでAR(拡張現実)を使って遺跡の楽しみ方を紹介する木造高生
②まいぎり式火おこし器を使った火おこし体験
③遺跡内を案内する木造高生
④石で叩きベンケイ貝に穴をあけてつくる貝輪づくり体験
⑤縄文太鼓を披露するじょうもんズ

津軽まほろば会が本市を訪れ遺跡について知識深める

津軽まほろば会(長谷川亨会長)の会員13人が2泊3日の日程で本市を訪れ、亀ヶ岡石器時代遺跡や田小屋野貝塚への理解を深めました。

同会は、関東圏在住のつがる市出身者またはゆかりのある方で構成され、会員同士の親睦を深めながら、市が関東で実施するイベントなどに協力しています。

この日は、同会とNPO法人つがる縄文の会が共催でフォーラムを開催。講師を務めた元青森県考古学会長の工藤清泰氏(車力町在住)は、遺跡と地域が共生するためには、地域の皆さんが学校教育や生涯学習などの機会に遺跡について学ぶこと、地域に遺物を残すこと、正しい歴史を学び民族への差別的視点を解消することが大切だと解説しました。

フォーラムの後には、交流会も開催され、参加者たちは再会を喜び話に花を咲かせました。

9/3
松の館



フォーラムであいさつを述べる長谷川会長

9/5
松の館

末永く円満で長寿夫婦53組に顕彰状授与



倉光市長から顕彰状が手渡されるダイヤモンド婚夫婦

福祉顕彰式が行われ、今年は88歳到達者夫婦33組、結婚60周年のダイヤモンド婚夫婦5組、結婚50周年の金婚夫婦15組に顕彰状が贈られました。

倉光市長は「今後とも末永く円満で、元気にお過ごしになることを切に願います」とあいさつしました。

式を終えてダイヤモンド婚夫婦の工藤良一さんとカツさんは「ここまでこれたことをうれしく思います。これからも元気にがんばります。夫婦円満の秘訣は、お互いに折れるところは折れること」と話しました。

柏中生がチェスボロー号遭難救助の史実を学ぶ

柏中学校の3年生47人が「つがるプライドを心に刻む」をテーマに、チェスボロー号遭難事故発生時に先人たちが乗組員を救助した人間愛を学ぶため、チェスボロー号慰霊碑や高山稲荷神社を見学しました。

生徒たちは、チェスボロー号歴史保存会松橋幸治会長に、慰霊碑や8月に高山稲荷神社の休憩所に設置された展示コーナーを解説してもらいながら、当時の状況や住民の思いを感じ取っていました。

柏中3年生の木村ひよりさんは「初めて見た人なのに自分の経験を生かして救助したのはすごいことだと思った」、小田川知加さんは「惨事を県庁に伝えるため、9時間かけて64キロもの距離を走ったと聞いて、すごく致命的な状況だと思った」とそれぞれ話しました。



慰霊碑の前で松橋会長の説明を聞く柏中生

ねぶたるみさんマジックショー



青森県内でマジックを披露するのはこれが初めてとなる「ねぶたるみ」さん

しゃりき温泉(指定管理者:株)グッドスタッフ)で、施設への誘客を図り、地域を盛り上げようと「ねぶたるみ」さんによるマジックショーが開催されました。引き裂いた新聞紙が元に戻るマジックや切れ目のない金属リングがつながったり、外れたりするマジックを披露すると、入浴客やファンたちから大きな拍手が起こりました。

青森県出身のねぶたるみさんは、東京都内でマジシャンとして活躍中。ねぶた祭りのハネトの衣装を着て、津軽弁で紹介するマジック動画がInstagramやTikTokなどのSNSで話題を集めています。

SNSで知り青森市から訪れた男性は「マジックショーでお手伝いをお願いされて、緊張したけど楽しかった。とても良い経験になった」と話しました。

凱旋ライブを終えたねぶたるみさんは「初めて青森県でマジックができてうれしい。遠いところから足を運んでくれたお客さんもいて本当に感謝しています。もっと多くの方に知ってもらえるようがんばりたいです」と話しました。